

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	幼児教室とことこぼけっと		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 10日		2025年 11月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	2025年 11月 10日		2025年 11月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 4日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援と集団活動のバランスが取れた活動内容になっている。	一人ひとりの発達段階やニーズに応じた個別支援を行うとともに、他のお子さまたちと関わる集団活動の場を通して、社会性やコミュニケーション力を自然に身につけられるよう支援している。また、専門的支援を実施することで、よりきめ細やかな支援や配慮にも努めている。	お子さまの発達の過程や特性に応じたニーズの把握にあたっては、本人支援の5領域の視点を踏まえた支援プログラムを提供していく。
2	成長・発達の過程におけるさまざまな出来事や状況に対し、保護者の気持ちに寄り添いながら伴走する家族支援となるよう努めている。	家庭でのサポートが継続できるよう、保護者へのフィードバックや相談対応の充実にも努めている。また、家庭での接し方や育児のヒント、具体的な対策については、実際に保育を見学していただく中で情報提供を行い、保護者が安心して育児に取り組めるよう支援している。	お子さまの発達状況や特性の理解を深めるため、ペアレント・トレーニングの実施を検討する。
3	成長・発達に応じてクラス編成を行い、継続的な支援を目指している。	親子クラスから未就園児クラス、そして就園時クラスへと移行する際の環境の変化や成長に応じて柔軟にサポートするとともに、短期間で成果を求めるのではなく、長期にわたり継続的な支援を行っている。	保育園や幼稚園などの並行利用先と支援内容の共有を行う。(2025年度は、お子さまに対して1~2回程度の園訪問を実施し、連携を図った。) また、就学や就学後の移行先の選択についての相談・援助を行う。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	部屋が一つしかないため、常に環境の工夫が求められる。	安全に配慮した設備や遊具は整えているものの、体を大きく使った活動ができるスペースや、集中して取り組める静かな個室の確保は難しい。	お子さまたちにわかりやすいように環境を構造化したり、落ち着ける場所を設けたりする。(必要に応じて相談室をクールダウン用のスペースとして使用する) 教材や遊具の整理整頓に努めるとともに、散歩や戸外遊びを積極的に取り入れていく。
2	他事業所や他機関との連携の機会が少ない。	保育園や幼稚園との情報共有の機会を積極的に設けているものの、その他の機関との話し合いの場は少なく、児童発達支援終了後の支援体制の構築が難しい。	障害児相談支援事業所や他の事業所との交流を行うことが求められる。
3	地域社会への参加に向けた話し合いなどの機会がない。	保育園や幼稚園との並行利用は多いものの、園との情報共有にとどまり、支援会議につながらないことが多い。また、他のお子さまとの交流などの取り組みを進めていくことも難しい。	お子さまが通う保育園や幼稚園、また障害児相談支援事業所との連携を図っていく。